

事業所職員向け 児童発達支援自己評価表

公表:令和6年3月21日

事業所名 仙台市なかよし学園

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	18 100%	0	<ul style="list-style-type: none"> ・定員より多いがクラスを広く利用できるように整理整頓を心がけた。 ・園児が増えたり肢体不自由児も増加傾向にあるため狭く感じることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の状況に合わせながら活動しやすい空間づくりや環境調整をしていく。 ・安全に十分活動できるように整理整頓に努める。
	② 職員の配置数は適切である	12 67%	6 33%	<ul style="list-style-type: none"> ・食事介助のときに人手が欲しくなる ・配置数は適切だと思うが休みが被ると体制が整えるのが難しい。 ・職員間で連携をはかり安全に配慮しながら何とかすすめている。 ・不足傾向であると感じる(感染症など流行時) ・配置数は適切だと言われるが個々の支援は様々なので「人数が多いと気持ちに余裕が出る」と感じる。食事介助など人手が必要な為、配置数は適切と感じない。 ・休みや感染症が流行すると体制が厳しい事がある。 ・感染症等で休みが多くなることもありもう少し余裕が欲しい。 ・介助が多い子どもたちがいるクラスでは人手がたりないと感じることがある。 ・足りない分は何とか調整しているが、満足のいく保育かと問われるとそうではないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配置基準は満たしているが活動や子どもの状況に合わせた職員配置を検討していく。 ・感染症が流行り職員が不足した場合には、安全に過ごせるよう職員間の連携をすすめていく。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	17 94%	1 6%	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下など見えにくいところがあるため、職員が子どもの動きをきちんととらえられるように立ち位置や目の配り方に気をつけている。 ・死角や登れる棚が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険な場所を職員間で共有し工夫していく。 ・落ち着ける場所や活動の工夫をすることやわかりやすい伝達等への配慮をしていく。

	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	16 67%	2 33%	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症が広がらないように毎日の消毒も徹底した。 ・トイレが匂う。 ・座位保持椅子が必要な児が多いクラスは空間が広い保育室を使用している。 ・子どもたちが降園後毎日消毒、掃除をしている。 ・経年劣化で傷んでいるところが多い。下水も臭いことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の検査や必要に応じた修繕はしているが、老朽化に伴い安全性の確保や清潔な環境を保持していけるように取り組む。 ・廊下の寒さ対策として、廊下の一部にエアコンを設置した。少しでも快適に活動できる環境になるよう努めたい。
業務改善	⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向を把握し、業務改善につなげている	18 100%	0		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の意見をよく聞き、また職員自ら気づけるよう努める。
	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	18 100%	0		<ul style="list-style-type: none"> 法人のホームページに掲載し周知できるよう案内している。発信することを意識して取り組んでいく。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	18 100%	0		<ul style="list-style-type: none"> より良い支援や業務を目指し取組んでいく
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	18 100%	0	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修に加え医療安全委員会が主催での内部研修も実施した。 ・勤務年数ごとに分けられた研修もあり同じレベルで話を理解する事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修と幼児部門の研修の充実を目指していく。 ・より良い支援のために年代別や職種ごとに学び実践につなげていく。 ・が部研修に積極的に参加し、学びを共有する。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもの保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している	17 94%	1 6%	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスによって話し合えていないクラスがありアセスメントを適切に行っているか不明。 ・クラス担任フリー職員と子供について振り返る機会を設けることで様々な視点での気づきがある。 ・経験が少ない保育者もいるため子供のとらえが不十分な事もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育や療育の基本となる学びの共有をすすめ、根拠ある支援をするためのアセスメントを丁寧にこなしていく。 ・実践を深め話し合う時間を確保し職員一人一人の力量を高めていく。
	⑩	個別支援計画には、具体的な支援内容が設定されている	18 100%	0	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップで作成するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な支援内容を設定することを意識作成していく。
	⑪	個別支援計画に沿った支援が行われている	17 94%	1 6%		<ul style="list-style-type: none"> ・課題と取り組みを理解しチームで取り組めるよう努めていく。

⑫	活動プログラムの立案をチームで行っているか	17 94%	1 6%	・クラスによる。 チームで話し合えていないクラスがある。	児童の状況や季節感を大事に様々な活動、遊びについてチームで検討していく
⑬	活動プログラムが固定化しないように工夫している	17 94%	1 6%	・クラスによる。 チームで話し合えていなくて工夫していない。 ・季節を感じられるような活動も積極的に取り入れている。 ・工夫はしているが人員不足でできない事も多い。	・児童に興味や関心が広がっていきけるよう繰り返し取り組むこと、 またいつもこれということではない遊び方の変化や新しい活動も取り入れていく。 ・教材準備や活動計画を共有しながら工夫していく。
⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成している	18 100%	0	・クラス会議をして子どもの様子を共有して計画を作っている。	・個別活動と集団活動のどちらも大切に活動内容と取り組みを工夫できるように作成している。
⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	16 67%	2 33%	・バス添乗などで確認できない時もあるため、前日に確認を済ませておくなどしていきたい。 ・時間が取れない時もホワイトボードなどを活用し確認に努めている。 ・バス添乗などもあるがノートやボードなど活用している。 ・バスに乗ってしまうと難しいこともある。	・情報共有が充実できるような工夫をしていく。 ・職員全員がそろって時間が少ないが、会議の進め方の工夫をしていく。 ・行事などは早めに計画し共有しながらすすめるように努める。
⑯	支援開始後には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	16 67%	2 33%	・その日の子どもの様子や職員の関わりなどを話し合い支援の方向を擦り合わせるようにしている。 ・記録を記入しながら振り返りを行っている。 ・できていない日もある。 ・毎日ミーティングで共有、確認している。 ・バス送迎等で職員が少なく時間の確保が難しい。時間を合わせてできるだけ設けるようにしている。	・振り返りをする時間を確保したり職員間のコミュニケーションを深め意見や気づきを出し合えるよう努める。
⑰	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	18 100%	0		記録することは意識し取り組んでいる
⑱	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	18 100%	0		
⑲	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	18 100%	0		

関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	⑳	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	18 100 %	0		学校や放課後デイサービスとの連携をすすめている
	㉑	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	18 100 %	0		関係機関との連携を大事に支援に活かしていく
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	18 100 %	0		ケア指示書をはじめ日常的なケアについて相談したりアドバイスをもらうなど連絡体制を整えている
	㉓	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	18 100 %	0		必要な児童については相互理解できるよう努めている
	㉔	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	18 100 %	0		就学する児童が多いため学校との情報共有や相互理解に努めている
	㉕	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	18 100 %	0	・自分が受けていないものでも研修内容を共有している。	センター協働の取り組みや研修会に参加している。アーチルからの助言や研修も受けて学んでいる
	㉖	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	7 39%	11 61%	・交流の機会はなかったが地域相談員が毎日ミーティングで訪問時の他施設の児の様子を報告している。 ・コロナ前はあったが現在は出来ていない。 ・感染症の不安が残る中でどう交流していくかいつから始められるか考えたい。	・交流と共に活動する機会ができるかどうか検討していく。 ・地域の活動に参加できる機会を模索していく。
	㉗	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	18 100 %	0	・連絡帳で情報共有したり必要に応じて電話でもやり取りしている。 ・バスの時間などで伝え愛ができるように努めている。 ・直接会う機会は少ないものの限られた機会を活用するようにしている。	・連絡帳や面談を通じて行っている ・相談しやすい関係作りを心掛け いつでも相談できることを呼び掛けていきたい
	㉘	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	18 100 %	0		
	㉙	「個別支援」を示しながら支援の内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	18 100 %	0		
㉚	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	18 100 %	0		定期的な面談があるが、それ以外にも相談はいつでも受けていけるように取り組んでいく	
㉛	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	18 100 %	0	・園長や主任がサポートしている。	保護者会と共に研修会の開催や総会などを通し保護者間でつながる支援に取り組んでいく	

保護者等への説明責任等	⑳	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	18 100 %	0	・その日のうちにクラスや全体で共有し対策を話し合っている。	タイムリーに応じていけるよう情報の共有と対応を心がけている
	㉑	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	18 100 %	0		毎月のお便りや必要に応じ文書を配布している
	㉒	個人情報の取り扱いに十分注意している	18 100 %	0		個人情報の保護について説明し、同意書をもらうなど慎重に対応している
	㉓	障害のある子どもや保護者との意見の疎通や情報伝達のための配慮をしている	18 100 %	0		わかりやすい提示の仕方や家族の状況に合わせた配慮をしていく
	㉔	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	11 61%	7 39%	・コロナの心配があり難しい。 ・感染症がありできていない。 ・コロナ以降困難な状況となっている。	・コロナの感染が心配されてきていないが、積極的に発信できることを考え地域との関わりを意識していきたい
非常等の対応	㉕	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	18 100 %	0	・各種マニュアルが策定してある、それに基づいた訓練を実施している。 ・定期的な訓練をすることによって緊急時の対応について実践的に理解する事が出来ている。	
	㉖	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	18 100 %	0	・災害だけでなく、急病や窒息事案が発生した場合の訓練も実施し対応している。	緊急対応訓練など実践しながら理解することが多いため、色々な想定を基に行う
	㉗	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	18 100 %	0	・発作の変化があった時にも確認している。	健康管理カードに記載してもらい 又必要書類を提出してもらい共有している
	㉘	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	18 100 %	0		アレルギーの指示書に基づき対応している
	㉙	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	18 100 %	0		毎日確認し共有している。年間のまとめを共有し活かしていきたい
	㉚	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	18 100%	0		内部研修だけではなく幼児部門全体でも取り組んでいる

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。